



## 成功をもたらせたものの変質そして変化 (2月のごあいさつ)

平成 28 年 2 月 1 日 (月)

2 月は沖縄の真冬ですが、**変化**、もうすぐそこに来ている春を感じます。

**過去に成功**をもたらしたものが**変質**している。

ドラッカーが「日本では、2000 年の初めになお**労働人口の 1/3** が製造業で働いている。この国が競争力を維持してゆくためには**2010 年までにこれが 1/8** になっていなければならない」と評した。ところが、2016 年になってもそのような大きな変化(**現在も 30%以上**)はない。日本は変化していないのではなく、**世界が変化**して、その結果、日本の強味は大きく縮小した。

流通は現代の重要産業である。しかし、1960 年代後半に流通革命の旗手として**スーパーマーケット**が登場した頃、業界は**暗黒大陸**と呼ばれていた。

当時、東京大学の林周二助教授の「**流通革命**」を読んだ。1960 年代の製造業の**合理化と生産コストの低減**を受けて、なおそれに反応しない弾力性のない**硬直化した流通機能**の進化の必要がテーマであった。流通過程の複雑さと後進性を指摘し、**流通の近代化**による大量消費の必要性、何層もの卸を整理してメーカーから小売までの経路、すなわち**流通チャンネル**を太く、短く、多くする必要があると説かれていた。その後 50 年以上を経て、スーパー、コンビニ、宅配の進化、大型で新しいモールなどを見ると**流通革命**は実現したと思える。

同様のことが、現在の**情報革命**にも言えることではないか。

アマゾン、カードットコムなどの盛況は、e コマース時代の到来を思わせるが、全商取引に占める**EC 化比率**は、日本では 4%を超えた程度であり、欧米の 10%を超える比率と比較すると未だ低い。新聞、雑誌、教育や人材開発のウェブ化も遅々として進んでいない。

しかし、**変化**の予感があり、**流通革命**に要した期間約 50 年に較べると、**情報革命**は未だ 20 年そこそこしか経過していない。20 年後に**人間の労働の 50%** は機械に変転換されるという話もあり、変化は急激に進むかもしれない。

**情報革命**は、人の作った組織を**変化**、**短期化**するだろう。

**会社の寿命**は 30 年というが、今後、それほど長命な企業はほとんどなくなるのではないか。約 5 年前、沖縄における長寿企業の調査を行ったが、約 20,000 社の沖縄の会社中 50 年以上継続しているものは 100 社(0.5%)程度であった。**企業の寿命**は短くなり、それに比較して働く人の**労働期間**は 50 年へと変化しつつある。